

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40		-	3.6
1 音環境				-	0.15	3.4	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル		—		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		—		-	-	3.8	0.50	
1 開口部遮音性能		防音サッシの採用に努めた		-	-	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45の仕様のシステムフロアを採用した		-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		—		-	-	-	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	4.0	1.00	3.7
2.1 室温制御		—		3.0	1.00	4.0	1.00	
1 室温		—		-	-	-	-	
2 外皮性能		住居部分は断熱等性能等級4		3.0	1.00	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		—		-	-	-	-	
2.3 空調方式		—		-	-	-	-	
3 光・視環境				3.0	0.25	4.3	1.00	3.9
3.1 昼光利用				3.0	0.43	4.6	0.50	
1 昼光率		住戸昼光率2.0以上		-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口		東、南面に窓がある		-	-	5.0	0.30	
3 昼光利用設備		—		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		—		-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御		庇とカーテンにて制御する		-	-	4.0	1.00	
3.3 照度		—		3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御		—		3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境				3.0	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F4☆を採用した		3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		—		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.4	0.40	3.0	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		バリアフリー法 建築物移動円滑化基準をみたしている		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		—		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-	
3 内装計画		—		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3		5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	1	階高のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-	3.0	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		-	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		-	2.0	0.50	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			2.0	1.00	-	-	
4	効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	人感センサーを使用する	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水型水栓に加えて、節水型便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
	2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装下地にLGSを採用し躯体と仕上げ材が容易に分別できる	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない塗床材を採用	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	1.00	-	-	
	3	冷媒	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		-	3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインの過半の項目を満たしており、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	○	○	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○		-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	○		○		○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)-			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	7.9%				
自然換気有効開口面積率	10.0%				

3.1.1 星光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	2.4 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	75 年					
想定必要間隔	15 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	2.81 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	1800 N/m ²					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数		27%		建物緑化指数		0%	
空地率	49%	水平投影面積率	3%	地表面対策面積率	15%	舗装面積率	39%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		－ 断熱等性能等級		等級4 相当		
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数		0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数		0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光		.0kW	太陽熱等	.0kW
				.0kW	蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	－	無	オフサイト再エネ有		－
一次エネルギー削減率	再エネ有	0%	無	0%	仕様基準で評価する	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	再生アスファルト	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)			地球温暖化係数(GWP)		
オゾン層破壊係数(ODP)	0			地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)			地球温暖化係数(GWP)		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	83%					隣棟間隔指標Rw	0.30				
地表面対策面積率	20.0%		屋根面対策面積率	0.0%		外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	408㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	13.9 m		基準高さHb	35.2 m				
緑地	44㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡		